

独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第18回
議事要旨

1. 日時 平成16年12月3日(金) 14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 中西副委員長, 相澤委員, 倉島委員, 神津委員, 古賀委員,
小森委員, 柴田委員, 関根委員, 鳥飼委員, 田中委員, 松岡委員, 山崎委員

4. 会議の概要

(1) 第4回「外来語」言い換え提案中間発表について

言い換える対象として候補に挙げられた外来語を検討し, 第4回「外来語」言い換え提案で取り上げる語を決定した。

提案を先送りしている「ユビキタス」「ドメスティックバイオレンス」については, 依然として, 継続的な調査・検討が必要であり現段階での提案は時期尚早と判断し, 第4回の提案からも見送ることとした。

(2) その他

第17回委員会以降に行われた, 外来語意識調査, 全国自治体への外来語に関するアンケートなどについて, 概要の報告があった。

5. 会議での主な意見

「アクセシビリティ」は新聞などではあまり用いられないが白書ではよく使われており, そこが問題であろう。福祉に関連して今後重要な概念となることも考えられ, 言い換える必要性は高い。

「クーリングオフ」や「センシティブ情報」のように, ことばの意味がわからないことが不利益につながりかねない語は, 積極的に言い換え提案で取り上げたい。

「ケアワーカー」「ケースワーカー」「ソーシャルワーカー」のように用語間で指し示すものが混乱している語群や, 「リユース」「リターナブル」「リデュース」のように用語間の関連の深い語群は, 各語を単独で考えるのではなく, ひとつのまとまりとした上で個々の言い換えを検討したほうがよい。

特に福祉・医療分野の用語は, 現場でも指示対象が混乱して用いられている現状がある。十分に調査し, 専門家とも議論しながら慎重に検討を進めるべきである。

「ターミナルケア」のように外来語であることが心理的なやわらげになっている語の場合は, 直訳を考えるのではなく, 受け手やその家族に配慮した婉曲的な表現を作り出すことが望ましい。

いわゆる商業外来語は言い換え語を提案しても受け入れられにくいかもしれないが、理解していない人がいるという現実がある限り、外来語の意味を示すこと自体に大きな意味がある。たとえ商業外来語であっても提案に取り上げてよいだろう。

以上